



JFE

JFEホールディングス株式会社

2025年3月期 第3四半期 決算説明会（インベスターズ・ミーティング）

2025年2月6日

登壇

司会：これより、JFE ホールディングスのインベスターズ・ミーティングを開催させていただきます。本日の出席者は、代表取締役副社長、寺畑雅史、常務執行役員、田倉綱大です。

時間は、プレゼンテーション約 30 分、質疑約 30 分の計 60 分を予定しております。質疑応答は説明終了後に一括して行います。それでは、本日発表いたしました決算および業績見通しにつきまして、まずは代表取締役副社長、寺畑より業績の概要をご説明いたします。



業績ハイライト

JFEホールディングス

JFE

- 製造トラブルの影響やグループ会社の収益悪化、および海外事業損失織込み、棚卸資産評価差損等により、**当期利益は950億円の見込み**(対前年度▲1,024億円、対前回公表▲350億円)。
- 年間配当は、前回公表通りの**100円**を見込む。

2024年度 3Q決算	3Q累計事業利益 1,207億円 (対前年同期 ▲1,242億円)
	※棚卸資産 評価差等除き 2,077億円 (対前年同期 ▲392億円)
2024年度 見通し	事業利益 1,150億円 (対前年度 ▲1,832億円、対前回公表 ▲450億円)
	※棚卸資産 評価差等除き 2,110億円 (対前年度 ▲852億円、対前回公表 ▲290億円)
	当期利益 950億円 (対前年度 ▲1,024億円、対前回公表 ▲350億円)
	棚卸資産評価差等除き 鉄鋼事業トン当たり利益 6千円/t (対前回公表 ▲2千円/t)
	単独粗鋼生産量 2,200万 t 程度 (対前年度 ▲145万 t、対前回公表 ▲40万 t)
	年間配当 100円 (前回公表通り)、 中間配当50円 (前回公表通り)

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

3

寺畑：24年度の3Q累計の事業利益は、1,207億円となりました。24年度の見通しは、製造トラブルの影響や海外中心にグループ会社の収益悪化、また海外グループ会社については経営環境悪化を踏まえ、不採算事業の将来の採算性について精査中ですが、減損損失のリスクをある程度織り込みました。さらに棚卸資産評価損の影響もあり、24年度は事業利益1,150億円、当期利益950億円という見通しを立てております。

棚卸資産評価差等除きの事業利益は 2,110 億円の見込みです。鉄鋼事業のセグメント利益は 260 億円、棚卸資産評価差等除きでは 1,220 億円、鉄鋼事業トン当たりのセグメント利益は 6,000 円を見込んでおります。トラブル等により粗鋼生産量が減っており、単独の年間粗鋼生産量は 2,200 万トンを見込んでおります。

配当については、今回の減益が棚卸資産評価損や一過性のトラブルの影響によることも踏まえまして、年間配当 100 円は維持させていただこうと考えております。

ただし、鉄鋼業を取り巻く環境は非常に厳しく、来年度に向けても、なかなか改善の見通せない状況となっており、非常に強い危機感を持って受け止めております。現在、中期経営計画を策定中ですが、特に JFE スチールにおいては、このような状況を踏まえ、改めて内容を精査しております。



2024年度3Q決算

JFEホールディングス

JFE

- ▶ **当期3Q累計事業利益は1,207億円**(対前年同期▲1,242億円)
- * 棚卸資産評価差等除きでは対前年同期▲392億円

(億円)	2023年度 実績		2024年度 実績		増減 (対前年度) 4月-12月累計
	10月-12月	4月-12月累計	10月-12月	4月-12月累計	
売上収益	12,891	38,657	12,246	36,754	▲1,903
事業利益 [棚卸資産評価差等除き]	806 [816]	2,449 [2,469]	388 [728]	1,207 [2,077]	▲1,242 [▲392]
金融損益	▲52	▲142	▲56	▲155	▲13
セグメント利益	753	2,307	331	1,052	▲1,255
個別開示項目	▲43	▲43	485	364*	407
税引前利益	709	2,263	817	1,417	▲846
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲181	▲634	▲241	▲416	218
当期利益	528	1,629	576	1,001	▲628

* 子会社の支配喪失に伴う損失▲131億円、減損損失▲44億円、京浜土地活用整備推進費▲49億円、土地売却益590億円
 事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
 セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの
 事業利益(棚卸資産評価差等除き)：連結事業利益から、鉄鋼事業の棚卸資産評価差等を除いたもの

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

5

田倉：それでは決算の中身についてご説明させていただきます。

こちらのページは 24 年度の 3Q 決算でございます。下の表の 4 月から 12 月の累計のところでご説明いたします。

まず上段の売上収益は3兆6,754億円と、前年同期から1,903億円の減収です。事業利益は1,207億円ということで、前年同期比1,242億円の減益、棚卸資産評価差等除きでは前年同期比392億円の減益となりました。一番下に記載の当期利益は1,001億円と、前年同期比で628億円の減益となりました。

中段に個別開示項目364億円とありますが、表の下の*印のところに記載の通り、ジェコス株式売却を中心に子会社の支配喪失に伴う損失が131億円、減損損失44億円、京浜土地活用整備推進費として49億円を計上しております。これらに扇町を中心とした土地売却益590億円を合わせて364億円のプラスということです。



2024年度3Q決算 セグメント別

JFEホールディングス

JFE

(億円)	2023年度 実績		2024年度 実績		増減 (対前年度) 4月-12月累計
	10月-12月	4月-12月累計	10月-12月	4月-12月累計	
鉄鋼事業	9,156	27,814	8,289	25,582	▲2,232
エンジニアリング事業	1,363	3,848	1,524	4,219	371
商社事業	3,681	11,102	3,660	10,816	▲286
調整額	▲1,309	▲4,107	▲1,228	▲3,864	243
売上収益	12,891	38,657	12,246	36,754	▲1,903
事業利益(A)	806	2,449	388	1,207	▲1,242
金融損益(B)	▲52	▲142	▲56	▲155	▲13
鉄鋼事業	482	1,710	104	449	▲1,261
エンジニアリング事業	77	165	66	155	▲10
商社事業	117	385	136	360	▲25
調整額	77	46	24	86	40
セグメント利益(A+B)	753	2,307	331	1,052	▲1,255

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

6

こちらはセグメント別に展開したものです。セグメント利益は、鉄鋼事業が449億円で、前年同期比で1,261億円のマイナスです。エンジニアリング事業は155億円、商社事業は360億円ということで、増減についてはエンジニアリング事業がマイナス10億円、商社事業がマイナス25億円となりました。



2023年度4-12月⇒2024年度4-12月

JFEスチール

セグメント利益 ▲1,261億円内訳

		2023年度 4-12月	2024年度 4-12月	(億円)			
単独 粗鋼生産量	万t	1,778	1,656	JFEスチール	2023年度 4-12月	2024年度 4-12月	増減 対前年同期
単独 出荷量	万t	1,573	1,453	セグメント 利益	1,710	449	▲1,261
鋼材 平均価格	千円/t	130.3	132.5	棚卸資産評 価差等除き	1,730	1,319	▲411
為替レート	円/ドル	142.9	152.3				

1. コスト	+240	・ 構造改革効果 +240
2. 数量・構成	▲360	・ 粗鋼 1,778万t→1,656万t
3. スプレッド*	+190	・ 原料物価変動の販価反映時期差 ・ 販価改善活動によりスプレッド改善
4. 棚卸資産評価差等	▲850	・ 棚卸資産評価差 ▲320 (+20→▲300) ・ キャリーオーバー影響 ▲570 (▲30→▲600) ・ 為替換算差 ▲60 (+90→+30) ・ 構造改革費用 (一過性) +100 (▲100→±0)
5. その他	▲481	・ Gr会社 ▲300

* 諸物価(金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等)を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

7

このうち鉄鋼事業のセグメント利益の前年同期比 1,261 億円マイナスの内訳をこちらに記載しております。

まずコストにつきましては、構造改革効果で 240 億円のプラスとなりました。一方で粗鋼生産が 122 万トン減少し、数量・構成が 360 億円のマイナスとなっております。

スプレッドについては記載の通り、国内を中心とした販売価格の改善に加え、原料炭が 23 年度に高騰した分の販価への反映が 24 年度にずれ込んだ部分も含め、原料物価変動の販価反映時期差もあり、190 億円のプラスです。

一方で主に主原料、原料炭の下落影響により、棚卸資産評価差等はマイナス 850 億円と大幅減となっております。

その他としては、主にインドの JSW やアメリカの CSI 等、海外のグループ会社の減益を中心に 300 億円のマイナス影響があり、合わせて 481 億円のマイナスとなっております。



2024年度 業績見通し

JFE

▶ 年間見通しは、**事業利益1,150億円**(対前回▲450億円、対前年度▲1,832億円)、**当期利益950億円**(対前回▲350億円、対前年度▲1,024億円)を見込む。

(億円)	2023年度 実績	2024年度 見通し(前回)	2024年度 見通し(今回)			増減 (対前年度)	増減 (対前回公表)
			年間	年間	年間		
			上期実績	下期見通し		年間	年間
売上収益	51,746	49,700	24,507	24,493	49,000	▲2,746	▲700
事業利益 [棚卸資産評価差等除き]	2,982 [2,962]	1,600 [2,400]	818 [1,348]	332 [762]	1,150 [2,110]	▲1,832 [▲852]	▲450 [▲290]
金融損益	▲186	▲200	▲98	▲102	▲200	▲14	0
セグメント利益	2,796	1,400	720	230	950	▲1,846	▲450
個別開示項目	▲112	400	▲121	571	450*	562	50
税引前利益	2,683	1,800	599	801	1,400	▲1,283	▲400
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲709	▲500	▲174	▲276	▲450	259	50
当期利益	1,974	1,300	424	526	950	▲1,024	▲350

* 子会社の支配喪失に伴う損失▲131億円、減損損失▲60億円程度、京浜土地活用整備推進費▲49億円、土地売却益他650億円程度
 事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
 セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの
 事業利益(棚卸資産評価差等除き)：連結事業利益から、鉄鋼事業の棚卸資産評価差等を除いたもの

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

9

続いて、通期の見通しです。

年間の売上収益は4兆9,000億ということで、前回公表との比較で700億円の減収です。事業利益は1,150億円ということで450億円の減益、棚卸資産評価差等除きでは290億円の減益という見通しです。

一番下段の当期利益については950億円ということで、前回公表から350億円の減益を見込んでおります。

それから中段の個別開示項目450億円については、*印に書いている通り、3Qまでの実績からは減損損失の織り込みの増加と、土地売却益の増加があり、これらを合わせ450億円のプラスを見込んでおります。



2024年度 業績見通し セグメント別

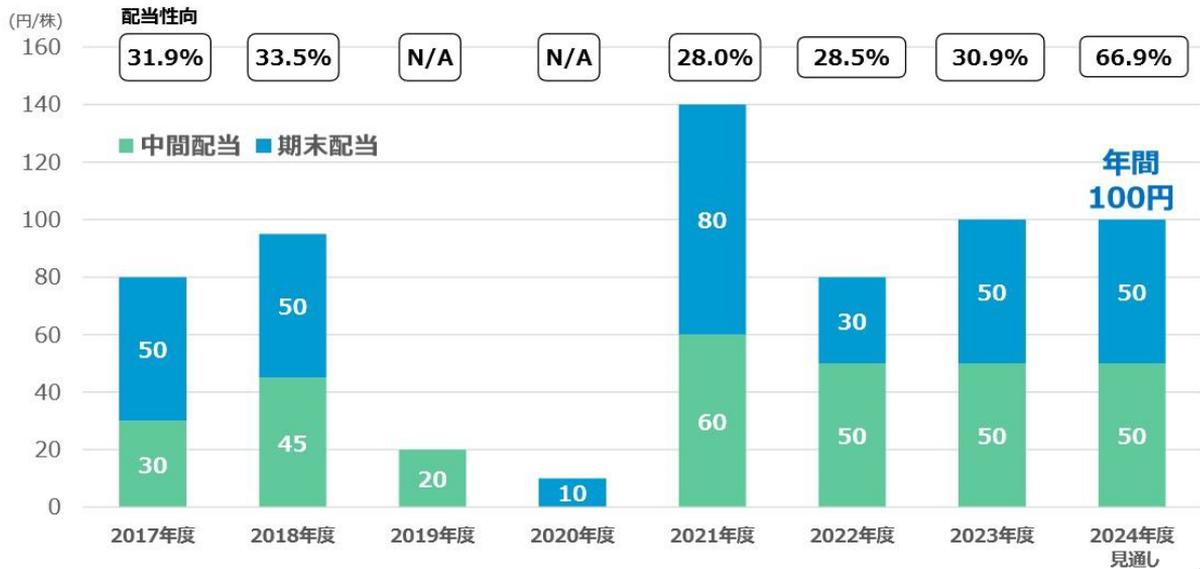
(億円)	2023年度 実績	2024度 見通し(前回)	2024年度 見通し(今回)			増減 (対前年度)	増減 (対前回公表)
			年間	年間	年間	年間	年間
鉄鋼事業	37,160	34,600	17,293	16,507	33,800	▲3,360	▲800
エンジニアリング事業	5,399	5,800	2,695	3,105	5,800	401	0
商社事業	14,764	14,500	7,155	7,345	14,500	▲264	0
調整額	▲5,578	▲5,200	▲2,635	▲2,465	▲5,100	478	100
売上収益	51,746	49,700	24,507	24,493	49,000	▲2,746	▲700
事業利益(A)	2,982	1,600	818	332	1,150	▲1,832	▲450
金融損益(B)	▲186	▲200	▲98	▲102	▲200	▲14	0
鉄鋼事業	2,027	700	345	▲85	260	▲1,767	▲440
エンジニアリング事業	243	200	89	111	200	▲43	0
商社事業	489	450	224	226	450	▲39	0
調整額	35	50	62	▲22	40	5	▲10
セグメント利益(A+B)	2,796	1,400	720	230	950	▲1,846	▲450

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

こちらはセグメント別に展開したものです。

鉄鋼事業セグメント利益が 260 億円ということで、前回公表から 440 億円のマイナスを見込んでおります。エンジニアリング事業、商社事業は、それぞれ 200 億円、450 億円ということで、前回公表通りを見込んでおります。

➤ 当期の期末配当については、**1株当たり50円**とする案を株主総会にお諮りする方針といたしました。(年間配当100円)



Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

配当につきましては、冒頭に説明がありました通り、期末配当 50 円という方針です。

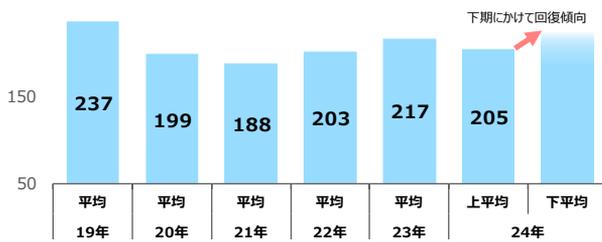


足元の事業環境認識（国内鋼材需要）

JFE

- ▶ 製造業向けは、引き続き**自動車分野や造船分野が需要を牽引すると見込まれるものの、25年度に向けて大きな伸びは期待しづらい**
- ▶ 建設分野は、建設コスト上昇・人手不足の影響を背景に低迷が続くものの、資材価格上昇スピードの鈍化もあり、底入れ気配も感じられる。

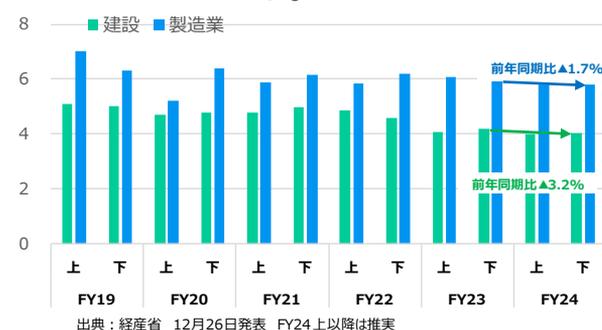
【自動車生産台数見通し/Q】 単位：万台



【分野別動向】

自動車	<ul style="list-style-type: none"> 品質・認証問題や台風の影響を受けた上期からは生産水準が回復。相対的に需要は安定的なものの、回復の頭打ち感も感じられる。
造船	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き堅調な需要環境にあり、国内造船各社は安定水準である約3年分の受注残を確保。一方、人手不足などを背景に建造ピッチが上がらない状況も続いており、短期的に鋼材需要の更なる伸びは見込みにくい。 各社の人手確保状況や生産効率化投資の動向を注視。
その他製造業	<ul style="list-style-type: none"> (建機) 欧州・アジア向けは引き続き軟調。米国向けは高金利影響に伴う住宅投資の減速感を受けて需要にブレーキがかかっており、在庫・生産調整が進む。 (産機) 中国の景気減速影響等で引き続き低調な環境。底打ちの観測も出ているが、現時点で目立った兆候はない。
建築	<ul style="list-style-type: none"> 資材高騰や人手不足の影響により、中小案件の低迷が続いているほか、再開案件等の大型案件でも需要の先送りが継続し、短期的な戻りは期待できないが、資材価格上昇については一服感が出ており、需要の底入れが期待される。 建設コストや金利の上昇等を背景とした建設投資・住宅取得マインドへの影響も懸念材料。
土木	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き高水準の予算措置がなされているものの、各種コストの上昇や人手不足等の影響を受け、24年度・25年度共に、実質的な活動水準や鋼材需要は漸減方向と想定。

【国内普通鋼 鋼材消費見通し/Q】 単位：百万トン



出典：経産省 12月26日発表 FY24上以降は推定

続いて事業会社別のご説明をさせていただきます。まず鉄鋼事業の足元の事業環境認識です。

国内外とも前回公表時から大きな変化はなく、極めて厳しい状況が続いているという状況です。

まず国内の製造業では、上期から回復傾向にある自動車分野、それから堅調な状態が続いている造船分野が需要を牽引すると見込まれておりますが、25年に向けて大きな伸びは期待しづらい状況です。下の棒グラフに自動車の生産台数見通しを付けております。24年の上期から下期にかけては回復する見通しですが、通期では23年度の台数を若干下回ると見通しております。右の表の三つ目のその他製造業では、建機・産機とも引き続き軟調が続いております。

建設分野は引き続き建設コスト、人手不足の影響を背景に低迷が続いております。一部底入れ気配は感じられるものの厳しい状況が続いております。

左下の棒グラフ、緑の部分が建設向けの鋼材消費見通ですが、前年同期から3.2%程度の減少を見通しております。



足元の事業環境認識 (海外鋼材需要)

JFE

- 内需が低迷する中国における供給過剰と輸出増により、鋼材需給の緩みや市況の停滞が継続。
- 地政学的問題、保護的な動きを見せる各国の通商施策といったリスクにも注視が必要。

【中国 粗鋼生産・鋼材輸出量】



【中国鋼材市況】



【実質GDP成長率見通し (2024・2025暦年)】 (矢印は前回見通しからの変動)

	世界平均	米国	中国	インド	ASEAN-5
参考:2023年	3.3%	2.9%	5.2%	8.2%	4.0%
2024年 (前回見直し)	3.2% → (3.2%)	2.8% → (2.8%)	4.8% → (4.8%)	6.5% → (7.0%)	4.5% → (4.5%)
2025年 (前回見直し)	3.3% → (3.2%)	2.7% → (2.2%)	4.6% → (4.5%)	6.5% → (6.5%)	4.6% → (4.5%)

出典：IMF World Economic Outlook Update 24/10公表(前回)・25/1公表(今回)

*ASEAN5 : タイ・マレーシア・インドネシア・フィリピン・シンガポール

【分野別動向】

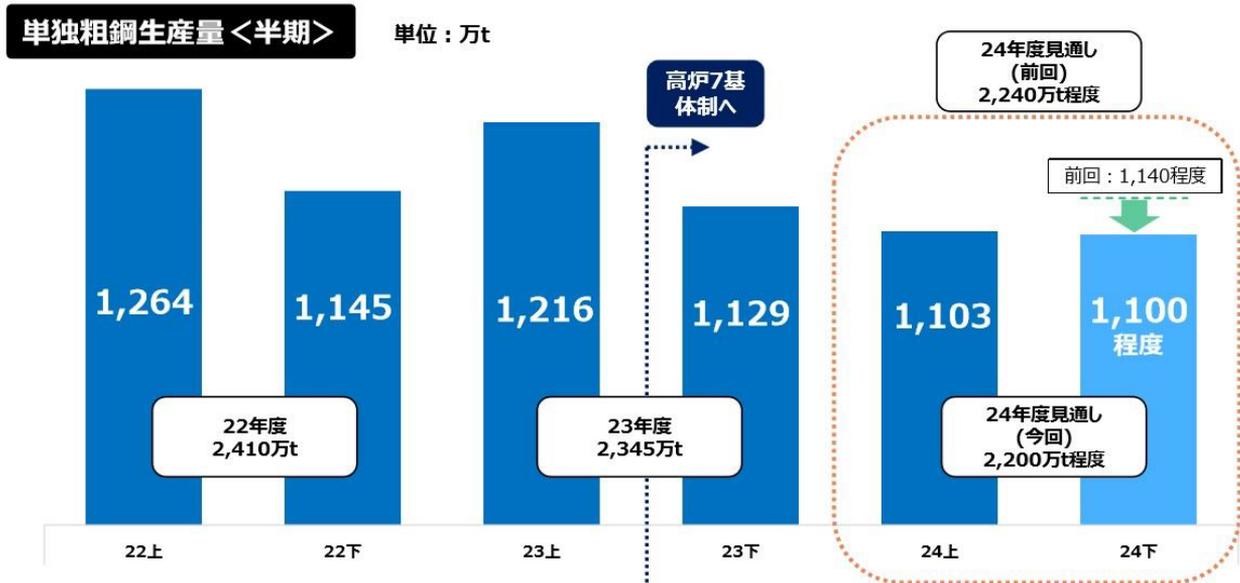
薄板	中国の内需低迷、高位生産、輸出増の影響により、アジア圏を中心に市況は低迷。需給バランス適正化・市況回復には一定の時間を要すると想定。
自動車	中国、インド、先進国が支える形で、世界生産は堅調さを維持する見通し。高金利・ローン審査厳格化影響が長期化しているASEAN地域については回復が遅れており、利下げ・ローン審査基準緩和・税制支援等が待たれる状況。
造船	中韓造船会社も、新造受注を伸ばし、引き続き安定した契約残を確保。但し、韓国造船会社は人手不足などで建造能力は頭打ち、鋼材需要の大きな増加は期待しづらい。
エネルギー	世界経済の緩やかな成長や地政学的緊張状態の高まりを背景に、エネルギー安定供給ニーズは引き続き強く、中期的に堅調な需要が見込まれる。一部足踏み感があるものの、米国の政権交代やOPEC+の減産緩和延期発表等の追い風要素もあり、需要の再加速が期待される。

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 15

続いて海外です。中国における供給過剰、年間1億トンを超える輸出により、市況の停滞が継続しているのが現状です。

分野別の動向について右下の表でご説明しますが、自動車は、世界生産は堅調さを維持しておりますが、特にASEANにつきましては、ローン審査厳格化影響が長期化しているという状況で回復が遅れております。一方、エネルギーにつきましては、中期的に堅調な需要ということ、さらに米国の政権交代を受けて需要の再加速も期待されると見ております。

- 製造トラブルにより対前回公表▲40万tの通期2,200万t程度を見込む。
トラブルは一過性のものであり、原因等は既に把握し、恒久対策を進めている。



こちらは、粗鋼生産量の見通しです。

上工程を中心に中小トラブルが複数発生した結果、合わせて40万トンの減ということで、通期で2,200万トン程度を見込んでおります。いずれのトラブルも一過性ということで、原因を特定した上で恒久対策を進めております。減産分は、主に輸出汎用品の調整で対応しております。



- 主原料
 - 鉄鉱石：最大の輸入国である中国の鋼材需要の不振が続き、中国政府の政策動向に左右される不透明な環境だが、**当面足元の価格レベルで推移**するものと想定。
 - 原料炭：世界の鉄鋼需要の大幅な回復は見込みにくく、**当面足元の価格レベルで推移**すると想定。豪州が雨季に入っており、降雨による生産・出荷遅延の影響は要注視。
- 金属
 - 中国の景気・鉄鋼需要回復の遅れにより、需要は低調であり市況は低迷。



ターム契約FOB	2023年度				2024年度			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
\$/DMT	112	107	103	113	121	101	92	89

ターム契約FOB	2023年度				2024年度			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
\$/WMT	283	240	327	325	251	230	198	-

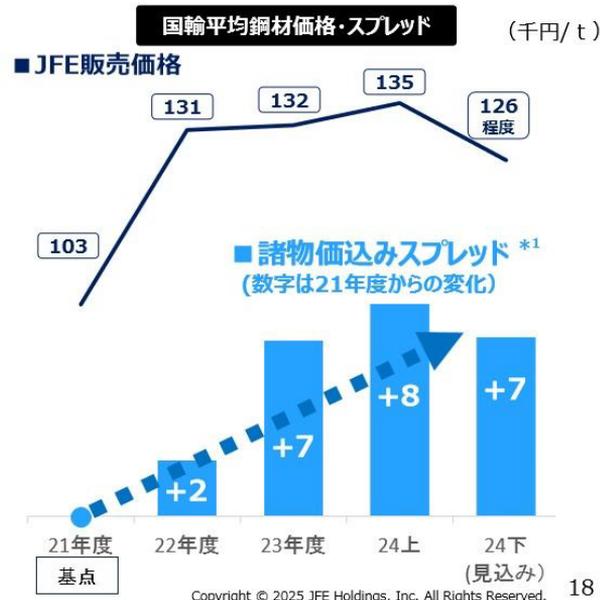
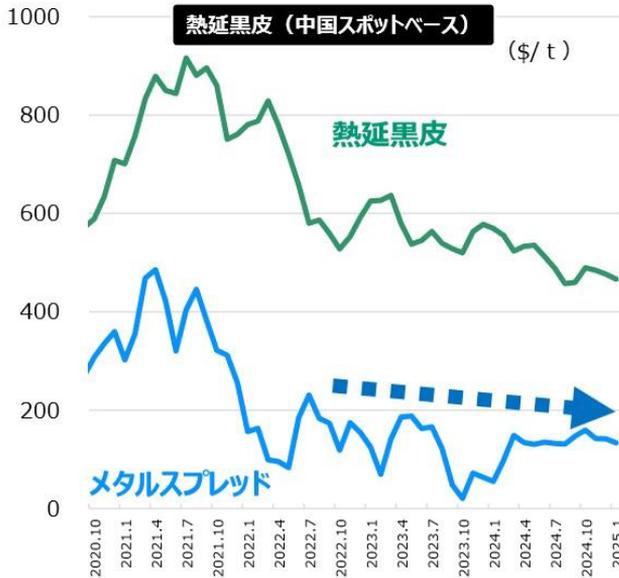
Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

続きまして、原料市況です。

まず鉄鉱石につきましては、太字で書いている通り、当面足元の価格レベル、CFR ベースでは 100 ドル前後で推移すると見ております。原料炭につきましては、前回のタイミングでは下期後半以降に 200 ドル台半ばまで上昇するという前提で申し上げておりましたが、足元 200 ドル前後で推移しており、当面足元のレベルが推移すると想定しております。

➤ 海外市況低迷、諸物価高騰の中、**価格転嫁、エキストラ見直し、価格水準の是正**を引き続き推進し、諸物価込みスプレッド*1は23年度並みを維持する見通し。

*1 金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等 を含むスプレッド



販売価格の改善についてです。

左のグラフの通り、海外市況は低迷しております。一方、特に今年度は人件費を中心に諸物価が高騰しております。これに対しまして、国内中心に価格転嫁等の取り組みを推進しており、諸物価込みのスプレッドは23年度並みを維持する見通しです。

こちらを示したのが右のグラフです。これは国輸平均の鋼材価格とスプレッドということで、折れ線グラフを見ていただきますと24年度上期から24年度下期では、主原料価格の下落を背景に、平均販売価格も1万円近くの下落を見込んでおりますが、スプレッドにつきましては国内中心の取り組みの結果、23年度並みのスプレッドは維持できる見通しです。



JFEスチール 2024年度 業績見通し

JFE

	単位	2023年度					2024年度					2024年度 前回 見通し		
		上期	10-12月		1-3月	下期	年間	上期	10-12月		1-3月		下期	年間
売上収益	億円	18,658	9,156	9,346	18,502	37,160	17,293	8,289	8,218	16,507	33,800	34,600		
セグメント利益	億円	1,228	482	317	798	2,027	345	104	▲189	▲85	260	700		
棚卸資産 評価差等除き *	億円	1,238	492	277	768	2,007	875	444	▲99	345	1,220	1,500		
単独 粗鋼生産量	万t	1,216	562	567	1,129	2,345	1,103	553	550 程度	1,100 程度	2,200 程度	2,240 程度		
連結 粗鋼生産量	万t	1,285	595	601	1,195	2,480	1,169	583	480 程度	1,160 程度	2,330 程度			
単独 鋼材出荷量	万t	1,065	508	504	1,012	2,077	966	487	490 程度	970 程度	1,940 程度			
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	44.2	41.6	41.3	41.5	42.9	42.4	40.0	42 程度	41 程度	42 程度			
鋼材平均価格	千円/t	129.3	132.5	135.2	133.8	131.5	135.2	127.0	125 程度	126 程度	130 程度			
為替レート	円/ドル	139.9	148.7	146.7	147.7	143.8	153.9	149.0	156 程度	153 程度	153 程度	152 程度		
期末為替レート	円/ドル	149.6	141.8	151.4	151.4	151.4	142.7	158.2	155 程度	155 程度	155 程度	150 程度		

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差を除いた損益

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

こちらは24年度業績見通しの前提をまとめたものです。

中段の単独粗鋼生産量については、下期1,100万トン程度と、上期と同水準を見込んでおります。二つ下の鋼材輸出比率は下期41%程度ということで、先ほどご説明した減産影響を、輸出の汎用品中心に抑制することが反映されております。鋼材平均価格は先ほど申し上げた通り下期12万6,000円を見込んでおります。為替レートにつきましては下期153円程度ということで、上期とほぼ同水準を想定しております。前回公表では150円程度と申し上げておりましたので、そこからは円安と見込んでおります。



2024年度 セグメント利益 対前回公表 ▲440億円内訳

JFE

- ▶ 製造トラブルの影響やグループ会社の収益悪化、および海外事業損失織込み、棚卸資産評価差損等により、対前回見通し▲440億円の260億円の見込み。

JFEスチール	2024年度 前回見通し	2024年度 今回見通し	増減 対前回
セグメント利益	700	260	▲440
棚卸資産評価差等除き	1,500	1,220	▲280

(億円)

- | | | |
|-------------|------|---|
| 1. コスト | ▲50 | ・トラブル影響 |
| 2. 数量・構成 | ▲50 | ・粗鋼 2,240万 t 程度→2,200万 t 程度 |
| 3. スプレッド* | +100 | ・原料物価変動の販価反映時期差
・販価改善活動によりスプレッド改善 |
| 4. 棚卸資産評価差等 | ▲160 | ・棚卸資産評価差+20 (▲350→▲330)
・キャリアオーバー影響▲230 (▲430→▲660)
・為替換算差+50 (▲20→+30) |
| 5. その他 | ▲280 | ・Gr会社▲170
・海外Gr会社の減損損失▲140 |

* 諸物価(金庫、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等)を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

20

こちらは前回公表比較の 440 億円マイナスのご説明です。

まずコストがマイナス 50 億円ということで、こちらはトラブルによる影響で、補修費や原単位が悪化したことによるコスト増を見込んでおります。数量・構成としてマイナス 50 億円、こちらは粗鋼生産が 40 万トン減ったことのマイナスと輸出汎用品を減らしたことの構成差改善を合わせ、マイナス 50 億円ということです。

スプレッドにつきましては、主に下期の原料炭価格低迷の影響を織り込んでおり、逆に棚卸資産評価差等についてはマイナス 160 億円の見込みです。その他につきましては、JSW、CSI 含めて国内外のグループ会社の業績悪化が 170 億円です。それから冒頭にご説明ありました通り、海外グループ会社の減損損失リスクを踏まえて、一定程度の損失を織り込むということで 140 億円のマイナスを見込んでおります。



2024年度 セグメント利益 対前年度 ▲1,767億円内訳

JFEスチール	2023年度 実績	2024年度 見通し	(億円) 増減 対前年度
セグメント利益	2,027	260	▲1,767
棚卸資産評価差等除き	2,007	1,220	▲787

1. コスト	+270	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構造改革効果 +250 ・ 操業改善他 +20
2. 数量・構成	▲390	<ul style="list-style-type: none"> ・ 粗鋼 2,345万 t → 2,200万 t 程度
3. スプレッド*	+100	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原料物価変動の販価反映時期差 ・ 販価改善活動によりスプレッド改善
4. 棚卸資産評価差等	▲980	<ul style="list-style-type: none"> ・ 棚卸資産評価差 ▲380 (+50 → ▲330) ・ キャリーオーバー影響 ▲680 (+20 → ▲660) ・ 為替換算差 ▲120 (+150 → +30) ・ 構造改革費用(一過性費用) +200 (▲200 → ±0)
5. その他	▲767	<ul style="list-style-type: none"> ・ Gr会社 ▲380 ・ 海外Gr会社の減損損失 ▲140

* 諸物価(金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等)を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 21

今申し上げた対前回公表からの変化を、前回の公表で分析した年度比較に反映したものがこちらのページですので、数字のご説明は割愛いたします。

構造改革によるコスト削減はあるものの、事業環境の悪化やトラブル影響により 150 万トン近くの減産になっているということ、グループ会社の収益悪化、さらには減損損失の織り込みにより、大幅な減益となる見込みです。



2024年度上期⇒下期 セグメント利益 ▲430億円内訳

JFEスチール	2024年度 見通し			年間	(億円) 増減 2024上→下
	上期 実績	下期 見通し			
セグメント利益	345	▲85		260	▲430
棚卸資産評価差等除き	875	345		1,220	▲530

- | | | |
|-------------|------|--|
| 1. コスト | +10 | |
| 2. 数量・構成 | ±0 | ・粗鋼 1,103万 t →1,100万 t 程度 |
| 3. スプレッド* | ▲130 | ・原料物価変動の販価反映時期差 |
| 4. 棚卸資産評価差等 | +100 | ・棚卸資産評価差 ▲270 (▲30→▲300)
・キャリーオーバー影響 +200 (▲430→▲230)
・為替換算差 +170 (▲70→+100) |
| 5. その他 | ▲410 | ・海外Gr会社の減損損失 ▲140
・経費発生時期差 等 |

* 諸物価(金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等)を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

22

こちらは上期と下期の比較です。

スプレッドは、主に 24 年度上期の販価に、23 年度下期に上昇した原料炭価格反映の影響が出ているということが要因です。それに加え、諸物価が上期から下期に上昇しているということも影響しております。棚卸資産評価差等は、ご覧の通りプラス 100 億円を見込んでおります。その他として減損損失のリスクを 140 億円織り込んだことに加え、グループ会社全体での業績悪化がマイナス 40 億円程度、さらに税金等の経費発生等を合わせて 410 億円のマイナスとなる見込みです。



2024年度 業績見通し

JFE

足元の事業環境/損益概況

- ▶ 「Waste to Resource分野」、「基幹インフラ分野」で受注拡大を見込む。
- ▶ 年間セグメント利益は、200億円を見込む（前回公表どおり）。

業績見通し

(億円)	23年度実績		24年度見通し		増減 (対前年同期)		24年度見通し (前回)	
	下期	年間	下期	年間	下期	年間	下期	年間
受注高※	2,933	5,630	3,540	6,000	607	370	3,540	6,000
売上収益	2,915	5,399	3,105	5,800	190	401	3,105	5,800
セグメント利益	156	243	111	200	▲45	▲43	111	200

※24年度より自治体等から受託したごみ処理施設等の長期O&M契約の受注計上方法を変更。
旧計上方法で計算した場合、24年度の年間受注高見通しは5,900億円。

こちらは、エンジニアリング事業です。

受注については順調に拡大しておりますが、セグメント利益につきましては当初見通し通りの200億円を見込んでおります。



2024年度 業績見通し

JFE

足元の事業環境/損益概況

➤ 年間セグメント利益は、450億円を見込む（前回公表どおり）。

業績見通し (億円)	23年度実績		24年度見通し		増減 (対前年同期)		24年度見通し (前回)	
	下期	年間	下期	年間	下期	年間	下期	年間
売上収益	7,344	14,764	7,345	14,500	1	▲264	7,345	14,500
セグメント利益	221	489	226	450	5	▲39	226	450

JFE 商事につきましても、前回公表通りのセグメント利益 450 億円を現在見込んでおります。



- ▶ 当期減益要因の一部解消に加え、7次中期に実行した成長投資の早期収益化、量から質への転換の推進・継続、さらなるコスト削減により、収益拡大を図る。

(参考)来期以降、収益化・収益拡大する投資案件

[鉄鋼事業]

- ・ 倉敷電磁鋼板能力増強 フル寄与 (24年度9月稼働)
- ・ 豪ブラックウォーター権益10%取得 (24年度中クロージング見込み)
- ・ thyssenkrupp Electrical Steel India 買収 (25年1月クロージング) (*)

[エンジニアリング事業]

- ・ 住友ケミカルエンジニアリング株式66.6% 取得 (24年度中クロージング見込み) (*)
- ・ モノパイル工場本格稼働 (25年度下期見込み)

(*) 前回公表からの変化点

[商社事業]

- ・ Studco買収 フル寄与 (24年5月クロージング)
- ・ セルビア電磁鋼板加工販売会社設立 (25年7月本格稼働見込み)

- ▶ 経営環境の急激な変化等に迅速に対応すべく、「監査役会設置会社」から、「監査等委員会設置会社」に移行 (定款変更議案の株主総会承認前提)。

- ▶ 8次中期経営計画では、厳しい事業環境下でも成長を実現できる戦略を示す。

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 27

来期以降に向けてということで、前回公表時にお示ししたところからの変更箇所を青字で記載しております。

8次中期に向けて、今中期で既に実行している成長投資の早期収益化を図っていくということで、下にリストを付けておりますが、鉄鋼事業の3番目に記載の通り、thyssenkrupp Electrical Steel Indiaの買収が先月1月にクロージングしております。

また、今週発表しました通り、エンジニアリング事業で住友ケミカルエンジニアリングの株式を取得することを合意しました。

なお本日発表しております通り、経営環境の急激な変化に迅速に対応すべく、総会での承認を前提に監査等委員会設置会社に移行するということを決議しました。また、今後発表する8次中期経営計画では、厳しい事業環境下でも成長戦略を示していきたいと考えております。



倉敷電気炉がCNに向けた製鉄プロセス転換支援事業に採択

2024/12/20リリース



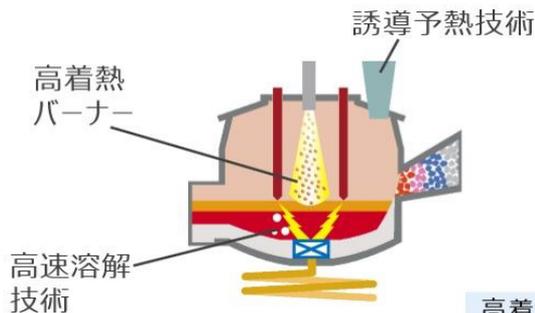
- 倉敷電気炉が支援事業*に採択。交付審査手続きを受けて年度内の機関決定を予定。
- 世界最大規模の電気炉を導入し、既存大型電気炉では製造し得なかった**高品質・高機能鋼材の大量供給体制を他社に先駆けて実現。国内グリーン鋼材市場でトップシェアを狙う。**

■投資概要

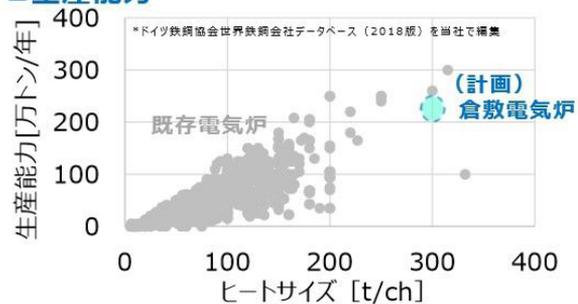
*GX経済移行債を活用した政府支援策である「排出削減が困難な産業におけるエネルギー・製造プロセス転換支援事業（事業I（鉄鋼）」）

投資規模	3,294億円（うち政府支援上限額：1,045億円）
投資内容	革新電気炉、炉外精錬設備、冷鉄源物流設備、岸壁整備、受配電設備 など
生産能力	約200万トン/年
生産開始	2028年度1Q
CO ₂ 削減効果	約260万トン/年

■導入予定の革新技术



■生産能力



高着熱バーナーや高速溶解技術、誘導予熱等の革新プロセス技術により、世界最大規模の電気炉で高効率な溶解技術を確立。

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 29

幾つかトピックスをご用意しています。

まず12月に発表しました倉敷電気炉についてですが、GX移行債を活用した支援事業に採択されました。今後、交付審査手続きを経て、年度内の機関決定を予定しております。既存大型電気炉で製造し得なかった高品質・高機能鋼材の大量供給体制を他社に先駆けて実現していきたいと考えております。



自動車用超ハイテン製造 溶融亜鉛めっきライン(CGL)建設

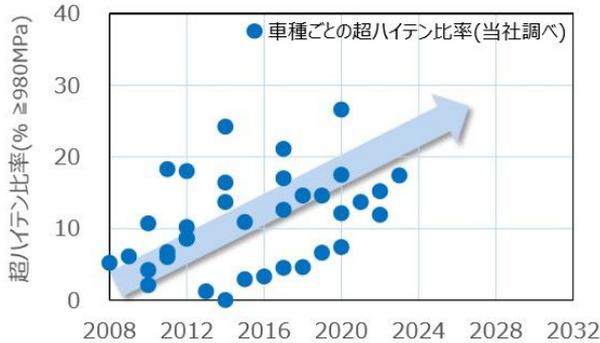
2024/12/10リリース

JFE

- 自動車の軽量化・高強度化ニーズ拡大に伴い、**超ハイテン***の需要が拡大。
- 超ハイテン特有の割れや溶接性の課題を解決する**最新技術を盛り込んだ次世代CGLの新設**を決定。

* 引張り強さ \geq 980MPa(メガパスカル)のハイテン(高張力鋼板)

■自動車車体の超ハイテン比率推移



■超ハイテンの代表的な適用部位



■溶融亜鉛めっきラインの概要

生産能力	36万トン/年(福山地区)
稼働時期	2028年10月(予定)
投資額	約700億円

さらなる超高強度ハイテンやエネルギー吸収性能に優れた高機能ハイテンなどの新商品の投入を進め、高付加価値品比率を引き上げる。

こちらも12月に発表しております、自動車用超ハイテン製造を目的としたCGLの建設についてです。

左の上の図の通り、今後も超ハイテンの需要は拡大すると見込んでおり、今回の新設に当たっては、超ハイテン特有の割れや溶接の課題を解決する最新技術を盛り込んでいく予定となっております。

- ▶ 今後も市場成長が見込まれる化学プラント領域でのEPC¹⁾およびメンテナンスにおいて、住友ケミカルエンジニアリング株式取得により、**顧客基盤と医薬関連・半導体関連等の対応領域を拡大。**
- ▶ 化学プラント領域の**売上は600億円強に倍増**、当該事業で**国内トップ³に入る規模に拡大。**

■ 化学プラント領域での領域拡大

1) EPC：設計・調達・建設



■ 譲渡対象会社の概要

会社名	住友ケミカルエンジニアリング株式会社 (株式譲渡後に商号変更を予定)
設立	1964年
資本金	10億円 (持ち株比率 住友化学100%)
拠点数	国内3か所 (千葉、大阪、愛媛)、海外2か所 (シンガポール、マレーシア)
クロージング	2025年3月31日予定

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

31

先ほどご紹介しました、住友化学子会社の株式取得についてです。

今回の株式取得を通じ、顧客基盤の拡充、対応領域についても、医薬関連、それから半導体関連まで拡大することが狙いです。化学プラントエンジニアリング領域の売上は倍増する予定で、さらに当該事業としては国内トップ3に入る規模になると見込んでおります。

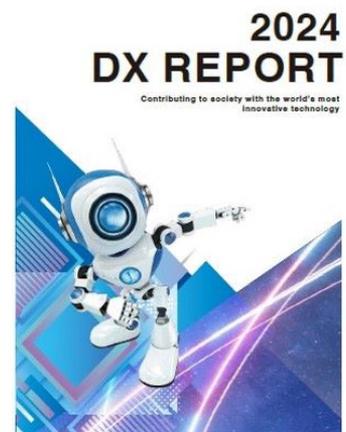
➤ 当社のDXの取り組みを記載した、「DXレポート2024」を2/7に発行します。当社HPをご覧ください。
 <URL : <https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/dxreport/index.html>>



主な記載内容と掲載事例（抜粋）

1. 「DXレポート2024」の発行にあたって
 ～DX推進のトップランナーとして、サステナブル社会に向けた新たな価値を提供～
2. JFEグループのDXを活用した社会課題に対する取り組み
 - 2025年の崖への挑戦
 - 労働人口減少と環境負荷低減への対応
 - DX人材育成
3. 各事業会社の取り組み
 - 鉄鋼事業**
 製鉄所システムリフレッシュ、多工程一貫品質データ解析システム 他
 - エンジニアリング事業**
 ごみ焼却炉自動運転AI「BRA-ING（ブレイング）」他
 - 商社事業**
 生成A I 活用に向けた取り組み 他
4. **セキュリティ対応** デジタル・ガバナンス、サイバーセキュリティ 他

 DX銘柄2024
 Digital Transformation



Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

32

最後に、明日2月7日に当社のDXレポートを発行いたしますので、ぜひご参照いただければと思います。

当社からのご説明は以上です。

質疑応答

司会： それでは質疑応答に移りたいと思います。

質問者： 今回新たに出てきた減損など、一過性の要因がいろいろありますが、下期の実力利益は、一過性要因を除くと 900 億円ぐらいで、それを倍にすると通期で 2,000 億円ぐらいの実力があると考えてよいでしょうか？

JFE： 棚卸資産評価差等除きの下期の事業利益 762 億円がベースとなりますが、減損の 140 億円以外にも、生産トラブル影響の 100 億円、税金費用や資産廃却のタイミング差等もあり、2,000 億円よりはもう少し大きくなると思っています。

質問者： 4 Q の鉄鋼の利益水準は足元の実力ででしょうか。例えば、原料価格の鋼材価格への反映の期ずれで悪くなっている等、何か理由はありますか。

JFE： 4 Q は、鉄鋼事業では海外のグループ会社の減損が 140 億円入っているのと、原料価格が 2 Q から 3 Q にかけて大きく下落した分の鋼材価格への反映が 4 Q になる時期差の影響で、4 Q は 3 Q に対してスプレッドがマイナスになっています。また、先ほど申し上げた税金費用、資産廃却のタイミング差について、4 Q に影響しており、これらも一過性だと思っています。

質問者： 3 Q から 4 Q にかけての販売価格の動きが日本製鉄と異なっています。日本製鉄は上がり、JFE は下がっていますが、これは値決め方式の差でしょうか。

JFE： 他社のことは分かりかねますが、原料炭価格が 2 Q から 3 Q で落ちており、値決めタイミングの差によって価格差の出るタイミングが変わる可能性はあります。

質問者： 鉄鋼事業の前回公表との比較で、スプレッドは改善しているが、コストと数量によるマイナスを打ち消しているようで、単独の実力はあまり変わっておらず、グループ会社が悪化したと総括できるかと思います。このグループ会社の悪化についてもう少し教えてください。JSW の 10-12 月の損益は、前回公表の段階で織り込めなかったのか、また、減損損失はどこで発生しているか、教えてください。

JFE： グループ会社は特に海外が悪化しており、その中でも JSW が前回との比較で 80 億円ほどマイナスになっています。当社は JSW の株式を 15% 保有していますが、上場会社ということで、独自に業績を想定するのが難しく、公表情報やコンセンサスをもとに推定しております。

一方で、JSW の決算資料等を見ると、10-12 月の粗鋼生産量は過去最高でしたが、中国鋼材流入による販価大幅下落の影響がかなり大きく、当社の収益にも大きく影響したと見ています。

JSW 自身は、製造能力拡大を続けており、今後も成長を見込んでいますが、特に足元の市況の推移については注視したいと思っております。

海外のグループ会社の減損損失については、現在精査中であり、特定の会社名については控えさせていただきたいと思えます。どこか特定の地域や会社に限ったものではなく、世界全域で精査中です。

質問者：生産トラブルについて、こういった種類のもので、いつ発生して、いつ戻るという見立てなのでしょうか。対策としては、どういうことを考えているのか教えてください。

JFE：時期的には 11 月の後半から 1 月ぐらいにかけて発生し、一番大きいものは福山の原料搬送系のトラブルに伴うものです。そのほかにも各地区で、トラブルが積み重なったというのが今回の状況です。数年前に起きた高炉本体の操業関係のトラブルとは異なり、高炉周辺の設備系のトラブルが主因です。

鉄鋼事業では、昨年 4 月からプラントエンジニアリング本部を立ち上げて、全社レベルで設備の交換の基準や部品の持ち方などの精度を上げようということを取り組みを始めています。こうした活動を行っている中でトラブルが起こってしまい大変残念ですが、新しいシステムを含めて、地道な活動の継続に加えて、起こったトラブルにつきましては、緊急対応はもちろんですが、事業所展開、他地区への展開を行い、点検強化等もしながら対策をとっているところです。

質問者：トラブルは各地区で積み重なったということですが、どういう問題意識をお持ちでしょうか。何か全社的に少し考える必要があるのでしょうか。

JFE：設備の老朽化も進んでおり、そういうことに対する問題意識を持って取り組みを始めている中で、トラブルが起こってしまったということです。

質問者：次期中期計画について精査しているというお話がありましたが、これは何を精査しているのでしょうか。外部環境やアクションプランなど、どういう観点で精査しているのか教えてください。

JFE：足元の環境が非常に厳しい中で、次期中期計画の中で改めて踏み込んで考えることがあるかどうかということを検討しているとご理解いただければと思います。

質問者：減損についてもう一度、その目的、背景、今後の考え方を教えてください。

次期中期計画の新たな出発点になる新年度に向けて、そういった懸念を一掃する目的なのでしょうか。

JFE：減損については、ご指摘の通り、今期が中期最終年ということもあり、米国や中国などを含め海外の経営環境が非常に悪化していることを踏まえ、不採算事業の将来性を現在精査しているという状況です。

ただ、大きなものというよりは、設備的なものや、事業の将来性を見直しによる減損などかと思えます。現在、精査中であり、今の段階ではリスクがあるものについて織り込んでいる状況ですので、これ以上についてはこの場では差し控えさせていただきます。

質問者：次期中期計画について、精査されているということでしたが、もともと3月中のご発表を予定されていたかと思えます。発表のタイミングは変更なしということでしょうか。

また、従来よりも踏み込んで、例えば構造改革のような取り組みをしっかりとやっていく、あるいは国内内需の低迷に対応するような設備体制を新たに精査するといった、新たな大きな変化もあるのでしょうか。

JFE：次期中期計画については発表タイミングを含めて精査している状況であり、これ以上のコメントは差し控えさせていただきます。



2024年度10-12月⇒1-3月

JFEスチール

セグメント利益 ▲293億円内訳

JFEスチール	2024年度					(億円) 増減 10-12月 →1-3月
	4-6月 実績	7-9月 実績	10-12月 実績	1-3月 見通し	年間 見通し	
セグメント利益	315	30	104	▲189	260	▲293
棚卸資産評価差 等除き	365	510	444	▲99	1,220	▲543

1. コスト	+60	
2. 数量・構成	+40	・粗鋼 553万 t →550万 t 程度
3. スプレッド*	▲320	・原料物価変動の販価反映時期差
4. 棚卸資産評価差等	+250	・棚卸資産評価差+240 (▲270→▲30) ・キャリーオーバー影響+110 (▲170→▲60) ・為替換算差▲100 (+100→±0)
5. その他	▲323	・海外Gr会社の減損損失▲140 ・経費発生時期差 等

* 諸物価(金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等)を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 39

質問者：39 ページで、3Q から4Q にかけてのスプレッドのマイナスについては、ひも付き価格への原料価格反映時期差の影響なのか、あるいはそれ以外の実体のマーヅンの悪化も含まれているのでしょうか。

また、一過性と考えられるのは、海外グループ会社の減損の140 億円ぐらいでしょうか。

JFE：スプレッドについては、原料物価変動の販価への反映時期差の影響です。原料価格が2Q から3Q にかけて大きく下落した分の鋼材価格への反映が4Q になるため、4Q は3Q に対してスプレッドがマイナスとなっています。

また、一過性については、海外グループ会社の減損損失140 億円のほかに、経費発生時期差に含まれる、税金費用が100 億円程度、その他資産廃却等があります。

質問者：生産トラブルの影響は、どれくらいの利益の押し下げ要因として効いているのでしょうか。

JFE：下期は一過性の生産トラブルによって、生産量が40 万 t 程度低下し、数量差で50 億円、コスト差で50 億円程度マイナスとなっており、100 億円の減益要因となっています。

質問者：エンジニアリング事業では、今回住友化学の子会社を買収するという事で、その狙いを教えてください。今後、エンジニアリング事業では、こうした M&A がさらに増えてくるのでしょうか。

JFE：今回、住友ケミカルエンジニアリングの株式を取得しましたが、以前、三井化学からも同様のプラントエンジニアリング事業を買収しています。エンジニアリング事業として、化学プラント事業における、EPC およびメンテナンスの世領域を注力分野と考え、今後も M&A も含めて拡張していきたいと考えています。

質問者：海外事業について、CSI をどう見ているのか、今後の見通しも含めて教えてください。

JFE：CSI については、2024 年春先以降の米国鋼材市況が非常に厳しい状況で、業績が悪化しています。足元は底を打ちつつあるという認識で収益も回復傾向ではありますが、アメリカは、成長を期待できるマーケットと考えていますが、今期中の回復は厳しいものと考えております。

質問者：配当について、2Q 決算の収益下方修正の際、来期の業績動向や安定配当を重視し、昨年と同水準の 100 円への減配に留めたとのことでしたが、今回、考え方は変わっていますか？

JFE：配当の考え方については、前回から変えておりません。今回の下方修正には、棚卸資産評価差等の悪化の他、鉄鋼事業の生産トラブルの影響や、海外グループ会社の損失といった一過性影響が含まれていること、および次期中期計画策定における安定配当についての議論も踏まえての今回の配当です。

質問者：キャッシュをしっかりと稼げているかどうか、コメントください。

JFE：24 年度末見込みの、有利子負債残高は 1 兆 8,500 億円と、前年度末と比較すると、200 億円増です。その一方で、EBITDA は 3,850 億円、Debt/EBITDA 倍率も 24 年は 4.8 倍になっています。24 年度は収益力が落ちており、回復していかなければいけないと強く思っています。

質問者：エンジニアリング事業全体の中で、他社では、風力発電の減損などを計上していますが、風力発電のエクスポージャーや、今後の伸び代がある分野について教えてください。

JFE：まず、洋上風力発電についてですが、プロジェクトの延期はありましたが、モノパイルの営業活動は進めており、案件が出てきたらしっかり受注していけると考えています。

今後の伸び代についてですが、まず、堅調なのは、廃棄物発電と橋梁関係です。ゴミ焼却炉も含め当社の強みでもありますので、ここを伸ばしていくということを考えています。これらに次ぐ柱を幾つか作っていききたいという中の一つが、先ほどご紹介した住友ケミカルエンジニアリングの株式取得による、化学プラント事業での EPC およびメンテナンスの領域になります。

質問者：住友ケミカルエンジニアリングの来期の利益貢献について、コメントください。

JFE：具体的な金額については差し控えさせていただきますが、投資規模が130億円超程度ですので、それに見合った利益を期待しています。

質問者：紐付き価格について教えてください。来期以降、自動車会社は減益トレンドに入りそうな様相もあり、来期以降の鋼材価格交渉については、直近の関税の影響も含めて厳しい状況が想定されるのではと思います。今後紐付き価格が、以前の水準に戻るようなリスクがあるのか教えてください。

JFE：今後も製品の価値に見合った価格を認めてもらえるよう、お客様と交渉していきます。

質問者：安定配当という基本的な考え方は前回から変わっていないということですが、配当を決めるに当たって何を重視するのでしょうか。何か教えていただけることがあればお願いいたします。

JFE：今中期計画は原則として、配当性向30%でやってきました。次期中期計画では、収益改善に取り組むとともに、安定配当を念頭に議論しています。

司会：ありがとうございました。以上で質疑応答を終了させていただきます。それではこれをもって、本日のインベスターズ・ミーティングを終了させていただきます。本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

[了]

本資料は当社の業績の状況について一般に公表するために作成された資料であり、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、日本国、米国又はそれ以外の一切の法域における有価証券への投資に関する勧誘を構成するものではありません。提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。